2016 年 5 月 15 日発行

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES

日本国際文化学会ニューズレター33号

http://www/jsics.org/

日本国際文化学会事務局
753-8502
山口県山口市桜畠3－2－1
山口県立大学
国際文化学部事務室内
Tel/Fax:083-928-3423
email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

2016年度第15回全国大会「紛争と融和における文化の役割―国際関係史から学ぶ」へのお誘い

第15回全国大会実行委員長　都丸　潤子

会員の皆様、いつも大変お世話になっております。また、熊本地震で被災されたみなさまには心からお見舞いを申し上げます。

このたび、2016年度日本国際文化学会第15回全国大会を早稲田大学早稲田キャンパスにて、大学院政治学研究科と共催で開催させていただくことになりました。本学での開催は、2003年の第２回全国大会と、2007年の臨時秋大会以来、９年ぶり３回目となりますが、今回、1日目は国際会議場、２日目はおととし秋竣工の新３号館が会場となります。

今大会では、政治経済学・国際関係論研究の長い系譜をもつ早稲田大学での大会開催を機に、国際関係論、国際政治学の視点を軸に、本学会の設立主旨でもある、国家間関係にとどまらず文化と文化の関係に着目する多分野からのアプローチを重視して、「紛争と融和における文化の役割」の検討をテーマにかかげております。民族紛争・宗教紛争のように「文化が戦争を起こす」側面が指摘される一方で、文化が、権力者の独裁的政策や好戦的外交を抑制し、紛争の予防・緩和や紛争後の平和構築に貢献したり、紛争予防の国内・国際規範という別の文化形成を促した例は過去に少なからずありました。本大会では長いスパンで国際関係史をふりかえりつつ、平和のために文化が果たせる役割を、改めて考える機会としたく思います。

１日目午後の公開シンポジウムでは、本学会初代会長をつとめられた平野健一郎本学名誉教授の基調講演「文化による紛争世界への対抗―カント『永遠平和の為に』を平戸から読み直す」をもとに、江戸初期とその同時代の文化触変、冷戦期の対立構造、現代の多文化共生・平和構築における文化の役割について、それぞれ国際文化論、国際政治史、社会学、文化人類学を専門とする会員・ゲストをパネリストにお招きして、分野を越えるまさにインターカルチュラルな議論を深めていただきます。

また今回は、共通論題、自由論題ともに、大会テーマに関するものも含めて合計46件と大変積極的なご応募をいただき、多数のセッションが同時並行で開催されます。共通論題ご応募の中からは、若手会員の意欲的な研究と活躍に注目して、新たに若手先端研究セッションも２つ設けました。２日目の総会時には文化交流創成コーディネーター資格の認定をうけた方々の中から優秀者による発表もあります。

さらに、２日目午後には、本学会の設立にご尽力され、第二代会長もつとめられた松井賢一龍谷大学名誉教授のご逝去を悼み、学会の15年を回顧する追悼フォーラムも急遽開催されることになりました。

15周年の節目に当たる大会を本学で開催することになり、実行委員会は身の引き締まる思いで、学部を越えての構成にて、皆様をお迎えする準備を行っております。暑い時期ではありますが、緑豊かな

キャンパスの快適な会場で、多くの皆様のご参加と活発な研究交流を、一同とても楽しみにお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

1日目会場：国際会議場（と中央図書館）

2日目会場：新３号館

●大会プログラム

＊詳細プログラムと報告要旨をまとめた冊子は、大会当日に受付でお渡しいたします。

●日本国際文化学会第15回全国大会（早稲田大学）日程

1日目：7月16日（土）於：国際会議場

時間	セッション等	内容(報告者名)
8:00～	受付	
9:00～11:00	自由論題A	支配・戦争の記憶と和解　（井出晃憲、大和裕美子、松居竜五、村上享子）
	自由論題B	シンガポール・マレーシア・インドネシアの多民族社会　（市岡卓、奥村みさ、坂口可奈、中島成久）
	自由論題C	在外沖縄人・沖縄文化　（照屋理、菅野敦志、月野楓子、上地聡子）
	自由論題D	文学と翻訳・通訳における文化　（齊藤美野、山田和夫、王偉、吉田理加）
	自由論題E	戦争中日本人の東アジア経験と現代の多文化共生　（張鴻鵬、張晟喜、塚島順一武市一成）
11:10～13:10	若手先端研究α	山脇千賀子　（文教大学国際学部教授）ほか２名 「音楽がつくる公共圏をめぐって ― インターカルチュラリティへの戦略的アプローチとして」
	共通論題①	萩原稔　（大東文化大学法学部准教授）ほか４名 「近代日本の対外認識 ― 20 世紀前半の知識人は「国際社会」をどのように観たのか」
	共通論題②	山岡道男　（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）、飯森明子　（常磐大学国際学部非常勤講師）ほか４名 「国際交流と平和構築 ― 戦間期太平洋問題調査会（IPR）と参加日本人」
	共通論題③	若林一平　（文教大学名誉教授）ほか４名 「戦争・民衆・知性の復興」
13:10～	昼食　お弁当引渡し	
13:15～14:30	常任理事会・理事会	

15:00〜 17:30 井深大記念ホール	公開シンポジウム	テーマ：「紛争と融和における文化の役割 ― 江戸初期、冷戦期、現代」
	基調講演	平野健一郎　(東洋文庫理事、早稲田大学 / 東京大学名誉教授)「文化による紛争世界への対抗 ― カント『永遠平和の為に』を平戸から読み直す」
	パネル・ ディスカッション	パネリスト：平野健一郎 田中孝彦　(早稲田大学大学院政治学研究科教授)：冷戦における文化の役割 飯笹佐代子　(青山学院大学総合文化政策学部教授)：多文化主義をめぐって 福武慎太郎　(上智大学総合グローバル学部教授)：平和構築と文化 モデレーター：都丸潤子　(早稲田大学大学院政治学研究科教授)
18:00〜 19:20	情報交換会	
19:30〜 20:00	ミニ・コンサート (7号館419)	長年の紛争を乗り越えてきたアイルランドの民族音楽と「鳥の歌」 (早稲田大学・東京藝術大学ケルトサークル有志)

2日目：7月17日(日) 於：3号館7・8階

時間	セッション等	内容(報告者名)
8:30〜	受付	
9:00〜 11:00	若手先端研究β	井上浩子　(大東文化大学法学部専任講師)ほか5名 「国際文化学を問い直す ― 国際関係研究の観点から」
	自由論題F	ナショナリズムの分析視角　(小島望、赤桐敦、櫻井幸男、仲村愛)
	自由論題G	日米／太平洋文化関係史　(福田州平、鹿田昌子、上品和馬、飯森明子)
	自由論題H	東南アジアにおける文化の移動と接触　(中村信之、齋藤大輔、大形利之、上岡磨奈)
	自由論題I	学術・教育実践　(斉藤理、水谷由美子、相原征代、玉腰辰己)
11:00〜	昼食　お弁当引渡し	
11:10〜 12:50	総会 第6回平野健一郎賞表彰式 文化交流創成コーディネーター資格認定優秀者の発表	
13:00〜 14:00	特別フォーラム	松井賢一先生追悼フォーラム「日本国際文化学会の設立15周年と今後の展望」 鼎談：平野健一郎(東洋文庫理事)、熊田泰章(法政大学国際文化学部教授)、松居竜五(龍谷大学国際文化学部教授)
14:10〜 16:10	共通論題④	岩下明裕　(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授／九州大学)ほか4名「ボーダースタディーズからみたカルチュラルな境界」(ラウンドテーブル)
	共通論題⑤	河原清志　(金城学院大学文学部教授)ほか4名 「国際関係における通訳翻訳の文化構築性と社会的役割」
	共通論題⑥	芝崎厚士　(駒沢大学グローバル・メディア・スタディーズ学部准教授) ほか4名「箱根会議 (1988-1997) の歴史的・現代的意義 ― 国際交流・国際文化関係史の視点から」
	共通論題⑦	山崎眞次　(早稲田大学大学院政治学研究科教授)ほか2名 「紛争における正義、国際規範、文化」
	共通論題⑧	鈴村裕輔　(法政大学国際日本学研究所客員学術研究員)ほか2名 「伝統を生かす、文化を活かす ― 実践的取り組みから見る「伝統」と「文化」」

●大会会場

早稲田大学 早稲田キャンパス 〒169-8050 新宿区西早稲田１－６－１
７月16日㈯：国際会議場（キャンパスマップ18番）
７月17日㈰：３号館７階、８階（キャンパスマップ３番）
交通アクセス：https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus
キャンパスマップ：http://www.waseda.jp/top/assets/uploads/2015/08/waseda-campus-map.pdf

●大会参加費について

一 般 会 員 2,000円（当日2,500円）
一般非会員 3,000円（当日3,500円）
院生・学生 1,000円（当日1,500円）

情報交換会　一般5,000円
　　院生・学生　2,500円

お弁当代（お茶つき）　【７月16日】1,000円　【７月17日】1,000円

＊学生食堂や会場周辺の食堂はありますが、土曜日は学生で大変混雑し、日曜日は閉まりますので、お弁当のご予約をお勧めします。

●大会参加申し込みと払込先

ニューズレター前号でご案内申し上げましたとおり、大会実行委員会は参加のお申し込みを原則メールで承ります。会員の皆さまには、お申し込みフォームを、学会メーリングリストを通じてお送りいたしますので、その内容をご確認のうえ、大会ご参加予定の詳細と委任状につきまして、メール本文の所定欄に書き込んでいただく形で2016年６月24日㈮までに、大会実行委員会（2016JSICS@list.waseda.jp）宛にご送信をよろしくお願いいたします。なお、郵送でお申し込みや委任をご希望の方は、お手数ですが同封のフォームに直接ご記入のうえ、下記大会実行委員会宛にご郵送下さい。どうぞよろしくお願いいたします。（非会員で参加ご希望の方には、参加申し込み方法について学会ホームページの全国大会のコーナーをご覧いただくようにお伝えください。）

〒169-8050 新宿区西早稲田１－６－１　早稲田大学　政治経済学術院　都丸潤子研究室気付
日本国際文化学会　第15回全国大会　実行委員会

参加にかかる費用については、同封のゆうちょ銀行「振替用紙」に必要事項をご記入の上、こちらも**６月24日㈮までに**、ゆうちょ銀行口座（01390-1-89396　日本国際文化学会）へ払込を済ませていただきますよう、お願いします。年会費振り込みとは別用紙ですので、ご注意ください。

なお、大会参加費等振込後にやむを得ないご事情でキャンセルされたい場合は、個別に大会実行委員会にメールなどでご相談ください。

●宿泊先

ホテルサンルート高田馬場に各自でご予約ください。（〒169－0075 東京都新宿区高田馬場１－27－７、電話03－3232－0101　JR高田馬場駅早稲田口から徒歩１分。大会会場までバスと徒歩で計約15分。）

※ご予約の際に、「日本国際文化学会全国大会での予約（大会実行委員長：早稲田大学・都丸潤子）」である旨お伝えいただければ、優先的に予約することができます。お早めにご予約をお願いします。優先枠はありませんが、会場近隣にもリーガロイヤルホテル東京，ホテルメッツ目白など他のホテルがあります。

●託児所利用について

大会期間中に限り、事前に大会実行委員会を通じて予約をされた参加者に早稲田大学が委託している託児所の利用が可能となります（料金は利用者負担となります）。予約をご希望の方は、６月24日㈮までに、大会ご参加申し込みとは別に、メールの件名を「託児所予約希望」として、大会実行委員会（2016JSICS@list.waseda.jp）宛に、１）お名前　２）ご所属　３）ご連絡先　４）お預りするお子様の人数　５）お子様のご氏名　６）お子様の性別　７）お子様の年齢　８）７月16日、17日のうちのご利用希望時間帯を明記のうえ、メールでお申し込みください。

折り返し詳細とご予約確定方法をお知らせいたします。

次期 2017 ― 2018 年度理事の選出について：理事選挙の投票をお願いします

５月11日・12日に理事選挙に関する文書一式をお送りしました。学会運営のための重要な選挙となります。2016年５月31日㈫消印有効となっています。

お送りした「選挙人名簿」の中から10名以内を投票用紙にご記入の上、中封筒に入れたものを返信用封筒で郵送いただきます様、どうぞよろしくお願いいたします。なお、「日本国際文化学会理事選挙に関する細則」はお送りした依頼文書の裏側に印刷しております。前年度までの会費をすべてお支払いの正会員のリストとなっており、実際の会員数とは異なっていますのでご注意ください。

文書一式が届いていない方、またご不明な点がありましたら、学会事務局までメールでご連絡をお願いいたします。理事選挙への投票について重ねてお願いいたします。

訃 報

本学会顧問の松井賢一先生（龍谷大学名誉教授）が2016年2月23日にご逝去されました。享年77歳です。

松井賢一先生は、龍谷大学国際文化学部開設にご尽力され、文化研究の歴史と伝統を有する龍谷大学において、国際文化学による文化の独自性と相関性を探求する新たな道を拓かれました。

さらに、国際文化学の探求を、様々な文化研究の学術専門性に依拠して教育研究に従事し、また学んできた者に広く開かれたものとするため、その研究拠点として学会を創設するように、松井賢一先生が最初の呼びかけを行い、その趣旨に賛同する多くの国際文化学部等の関係者によって日本国際文化学会は、2001年11月に発足しました。

すでに1990年代からその数を増やしつつあった国際文化学部と大学院において、新たな学問的視点から文化を捉えなおすことに携わってきた私たちが、所属する大学の中での教育研究の活動成果を、学会の広い場において互いに発表し、評価し合うことができることは、新たな学問に取り組む者として大きな刺激を得ることになりました。学部と大学院の新設の仕事は、多大なる労力を要することであり、その仕事の厳しさを知る者同士で、教育研究の実りについて語ることのできる学会に集うことは、大きな喜びとなりました。

学会発足後、松井賢一先生は副会長・会長・顧問を歴任され、また学会事務局の運営の労を長年に渡って担われました。全国大会シンポジウムなどでのご発表は、学会の「ニューズレター」と『インターカルチュラル』などで読むことができます。専門のご研究として『国際エネルギー・レジーム：エネルギー・地球温暖化問題と知識』（エネルギーフォーラム、2006）などを上梓されました。

なお、松井賢一先生のご功績を称え、早すぎる別れを惜しむ場として、本年度の全国大会において「松井賢一先生追悼フォーラム」を開催し、学会設立によって目指した国際文化学の学術性確立のこれまでの成果と今後への期待について意見交換を行うことにいたしました。多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

本学会の創設と発展に尽くされた松井賢一先生のご功績の一端をここに記し、謹んで哀悼の意を表します。

顧問　熊田泰章（法政大学国際文化学部）

編集後記

西暦2001年に誕生した日本国際文化学会は、今年で15回目の全国大会を迎えます。時代の流れは速く、遥か昔の100年は今日の10年、過去の10年は今日の１年といったような感覚で、時代と社会がめまぐるしく移り変わるこの頃です。21世紀という新たな時代に歩みを続ける本学会の15年は、単に15という数字だけでは言い表すことのできない重みがあります。第15回全国大会でお目にかかれることを楽しみにしております。ぜひご参加いただきます様お願いいたします。

（日本国際文化学会事務局　M.I.）